

訃 報

山 岸 美 穂 助教授



2002年ご就任の年、研究室にて。

2005年1月24日に本学人間文化学部助教授の山岸美穂助教授がご逝去されました。

先生には、本紀要第1号より力作をご投稿いただいております。山岸助教授の研究は、音の社会学、サウンドスケープ論をはじめ、日常の音から音楽、生活空間、都市等を研究対象とした幅広いもので、感性行動学へも研究の対象を広げようと日々努力を重ねていらっしゃいました。多岐にわたる研究を著書や論文、講演で精力的に発表され学界の発展に大いに貢献された他、日本サウンドスケープ協会の理事を務められ、人間の音体験や遊びなどにも様々な提言をされました。特に栃木県の魅力を人間の五感によって体験し発見することに力を注がれ、人々が感性を生き生きと躍動させることのできる潤いにあふれた生活を送れることを願い、県内の様々な活動に学生を引率して積極的に参加されました。中でも忘れることが出来ないのは、2003年11月の作新学院大学「大学祭」で学生有志のグループと共に縁日のコーナー「ジョセフとゆかいな仲間たち」を企画されたことです。射的やデンデン太鼓作りなど、懐かしい遊びのワークショップでした。その後、「ジョセフとゆかいな仲間たち」は子育て支援のボランティア活動等で多くの方から感謝され、その活動は地元メディアでも報道されました。思えば、あの大学祭が全てのスタートだったのです。

今号でも紹介しているキャップストーン・コースに実施にあたっては、その準備段階より栃木県内諸団体との連携に力を尽くされ、人間文化学部の教員の多くが、地域の方々と接し方や、地域と共に歩むための方法論を学びました。本年度、第一期のキャップストーン・コースが無事終了し、作新学院大学は、地域に根ざした「地域大学」への道を歩んでいます。キャップストーン・コースの成果を見ることなく山岸助教授がご逝去されたことは、我々にとっても大変残念なことです。

謹んで山岸美穂助教授のご冥福をお祈りいたします。

人間文化学部 紀要委員会